



長崎県

環境保健研究センター

Nagasaki Prefectural Institute of Environment and Public Health



環境保健研究センターの役割

(1) 地方環境研究所及び地方衛生研究所としての位置づけ

地域における環境・保健衛生に関する公的な科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、研修指導及び公衆衛生情報等の収集・解析・提供を行います。

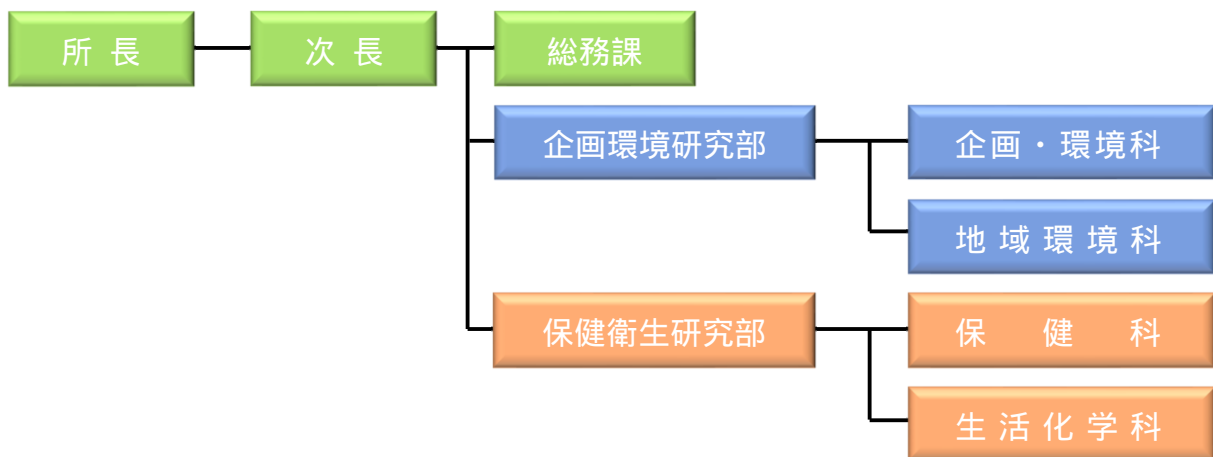
(2) 長崎県の地方機関としての役割

長崎県における地域社会ニーズを把握して調査研究を行い、その成果を適切に行政施策へ反映させるよう関係部局へ提言又は情報提供を行います。

基本目標

長崎県環境保健研究センターは、「県民の生活環境の保全及び生命の安全の確保」に寄与するために、地域における環境と保健衛生に関する試験検査、調査研究等を行います。

組織図



沿革

- 昭和26年 細菌検査所（明治36年設置）、衛生試験室（明治42年設置）を統合し、衛生研究所として長崎市中川町で発足
- 昭和42年 長崎市滑石の総合庁舎に新築移転
- 昭和48年 衛生研究所を改組し、衛生公害研究所として発足
- 昭和51年 長崎市滑石1丁目9番5号に本館庁舎を増設
- 平成13年 新衛生公害研究所基本構想策定
- 平成16年 新衛生公害研究所「長崎県環境保健研究センター（仮称）」整備計画策定
- 平成19年 大村市池田2丁目1306番地11に環境保健研究センター新築移転

運営方針

目的

県民の生活環境の保全及び生命の安全の確保

基本目標

環境の保全

生命・健康の維持

食の安全・安心の確保

運営方針

健康危機管理体制の確保

行政課題の解決や成果の公表

研究員の資質向上

運営の効率化

試験検査の信頼性確保

第三者評価による研究事業の推進

試験検査

環境分野

放射能に関する検査
酸性雨に関する検査
PM_{2.5}に関する検査
地下水に関する検査

保健衛生分野

細菌、ウイルス、寄生虫等の検査
感染症発生動向調査事業に係る検査
食品等の規格基準（添加物、金属等）、残留農薬検査
食品中のアレルギー物質、動物用医薬品の検査
食中毒（細菌、ウイルス、寄生虫、化学物質等）の検査
カネミ油症に係る血中PCB検査
医薬品の適合性検査
家庭用品（衣類等）の規格検査
無承認無許可医薬品等買上検査（健康食品等）

取り組み

調査研究

【取組事項】

安全・安心で快適な環境づくりに関する調査研究
・地球温暖化緩和に関する調査研究
・気候変動適応に関する調査研究
・大気汚染物質に関する調査研究
・放射能業務に関連する調査研究
・廃棄物に関する調査研究

豊かな環境づくりに関する調査研究

・閉鎖性水域の環境保全に関する調査研究
・生物を利用した水及び環境改善に関する調査研究

【取組事項】

感染症の究明・拡大防止に関する調査研究
・感染源及び病原性の解明等に関する調査研究
・高感度迅速診断法及び予防に関する調査研究

食品及び医薬品等の安全性と信頼性の確保に関する調査研究

・迅速分析法に関する調査研究
・原因究明に関する調査研究
・品質評価法に関する調査研究

研究成果の公表

ホームページ等による情報発信

環境・保健衛生分野に関する情報、業務内容等の発信

感染症情報センターによる感染症発生動向に関する情報収集・解析・提供

地域気候変動適応センターによる気候変動影響及び適応に関する情報収集・提供

学習会等への対応

具体的な取り組み（環境分野）

世界各国で温室効果ガスの排出を抑制する対策（緩和策）に取り組んでいますが、それでも、世界の平均気温は上昇し、21世紀末に向けて気候変動によるリスクが高くなると予想されています。このようなことから、緩和策を講じても回避できない気候変動影響を予防・軽減するための対策（適応策）が不可欠です。本県においても、地域気候変動適応センターを設置する等、これらの取組を推進します。

また、微小粒子状物質（PM2.5）による健康影響、生物多様性の保全、閉鎖性水域の水質保全等、越境影響及び地域的な課題が依然として顕在しており、その対策が求められています。

これらの課題に対して、環境変化の把握・解析、課題解決に向けた試験検査等を進めることで、環境の保全に取り組めます。

企画・環境科

- ・気候変動適応に関する調査研究
- ・大気環境の保全に関する調査研究
- ・環境放射能に関する調査
- ・企画調整、教育研修、情報発信



イオンクロマトグラフ装置



PM2.5成分分析



環境放射能調査

地域環境科

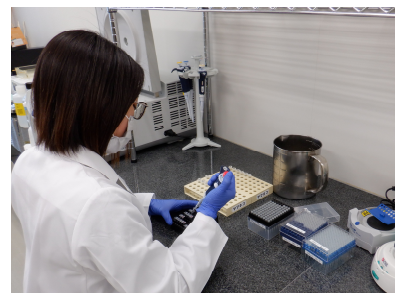
- ・大村湾の環境保全と活性化に関する調査研究
- ・諫早湾干拓調整池の水質保全と水辺空間づくりに関する調査研究
- ・自然共生に関する調査研究
- ・ツシマヤマネコ保護増殖事業に係る検査



底生生物調査
（ソーティング作業）



河川調査



ツシマヤマネコのDNA分析

具体的な取り組み（保健衛生分野）

新型コロナウイルス感染症、エボラ出血熱、デング熱及び結核といった世界規模で流行する新興・再興感染症問題に加えて、食品中の農薬混入、自然毒による食中毒や危険ドラッグによる事件、健康食品等中の無承認無許可医薬品の含有等も続発しているように、健康危機事例については今後ますます多様化、複雑化することが想定されます。

県民の生命及び健康の保護の観点から、試験検査の信頼性を確保するための精度管理体制の構築及びそれに基づく試験検査の実施、並びに感染源等の迅速診断、健康被害原因物質の精密分析、及び食品の品質評価等に関する調査研究の推進により、健康被害の未然防止や発生時の被害拡大防止に取り組めます。

保健科

- ・感染症の究明・拡大防止に関する調査研究
- ・食中毒原因物質の究明に関する調査研究
- ・感染症発生動向調査事業に係る検査
- ・食中毒に関する検査



安全実験室



感染源及び病原性の調査



ウイルス培養

生活化学科

- ・健康被害原因物質の迅速分析法に関する調査研究
- ・カネミ油症にかかる血中PCB検査
- ・食品等の規格基準及び表示違反（残留農薬、動物用医薬品、添加物、アレルギー等）検査
- ・医薬品等化学物質に関する検査



残留農薬検査



食品等一斉収去検査
(即席めん類：酸価・過酸化物価)



ガスクロマトグラフ-
三連四重極形質量分析装置

具体的な取り組み

成果の公表

各分野において取り組んだ調査研究等で得られた成果について、学会、成果発表会、論文及び所報等により公表します。

ホームページ等による情報発信

環境・保健衛生関係情報、成果発表会の内容、所報及びセンター業務内容等の情報を発信します。

感染症情報センターで、医療機関及び保健所の協力のもとに、本県における感染症発生動向に関する情報を収集、解析、提供します。

地域気候変動適応センターで、気候変動影響及び気候変動適応に関する情報を収集及び提供します。

学習会等への対応

センター施設利用による学習会等や講師派遣依頼に対応し、学校や団体等を対象に科学実験や講演等を行い、科学や環境・保健衛生に関する意識啓発を図ります。



センターホームページ



エントランスホール



施設見学の受入



環境学習会



保健学習会



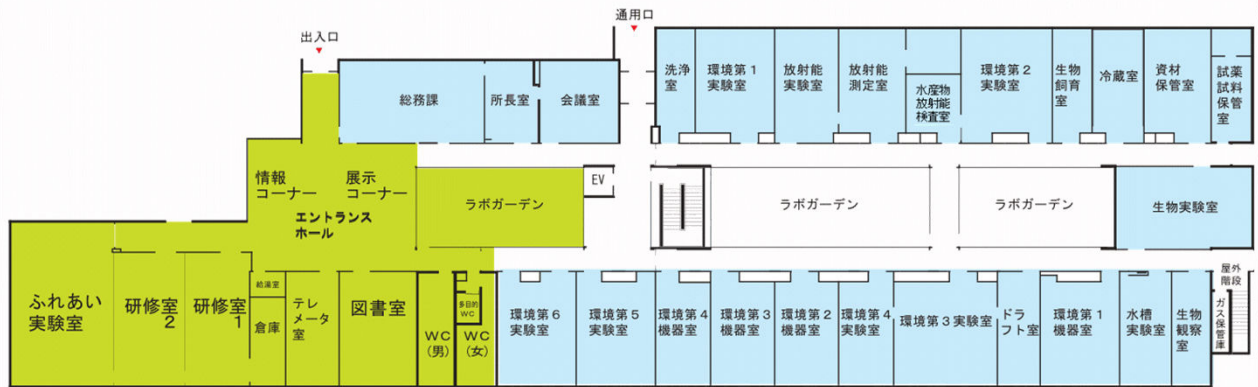
ふれあい実験室

施設平面図

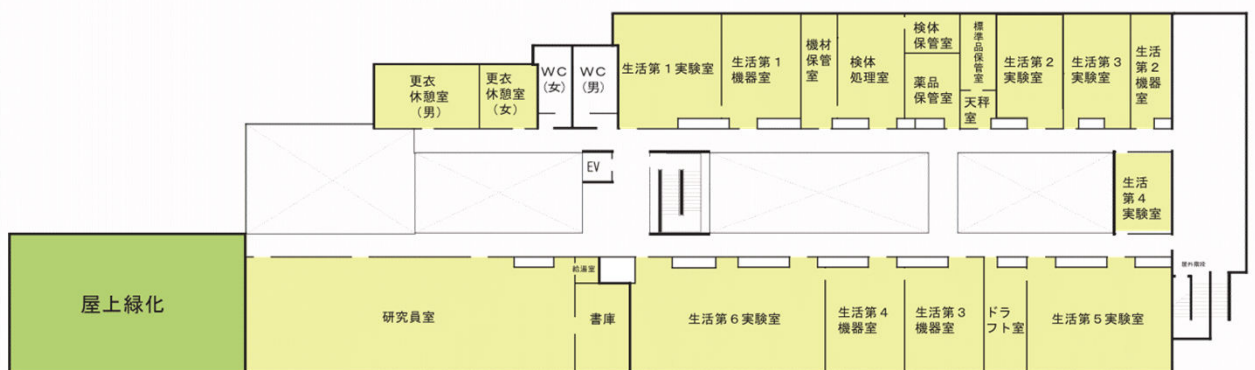
施設の概要

- ・構造・規模 鉄筋コンクリート造3階建 4,920.53m²
- ・敷地面積 12,853.97m²

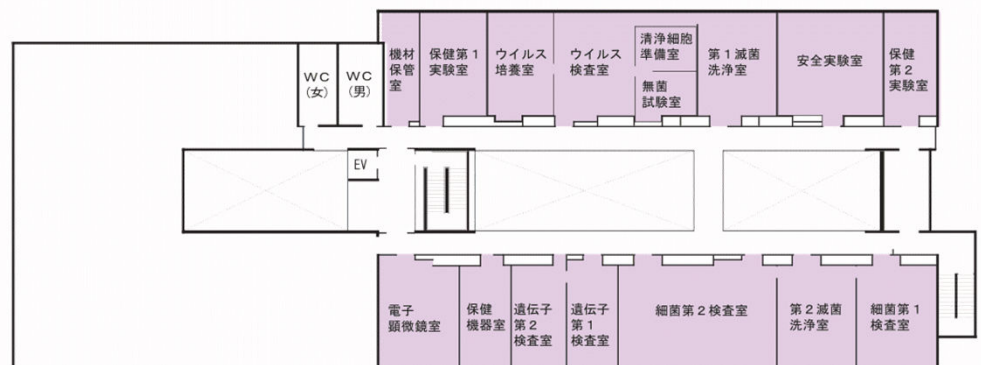
1F 交流ゾーン、総務課、企画・環境科、地域環境科



2F 生活化学科



3F 保健科



ご案内

業務時間

9:00～17:45 休業/土・日・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)

アクセス

長崎自動車道「大村」ICより車で3分

JR大村線大村駅からバスで約20分(1日2便)、タクシーで約10分

長崎空港からタクシーで約15分



大村IC入口交差点から、大村ハイテクパーク方面へ上り、道路左側の案内板を右折した奥の建物です



長崎県 環境保健研究センター

Nagasaki Prefectural Institute of Environment and Public Health

〒856-0026 大村市池田2丁目1306番地11

TEL 0957-48-7560 FAX 0957-48-7570

E-mail : s16015@pref.nagasaki.lg.jp

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/kankyo-c/>

https://twitter.com/ngs_kanho

2021.5